

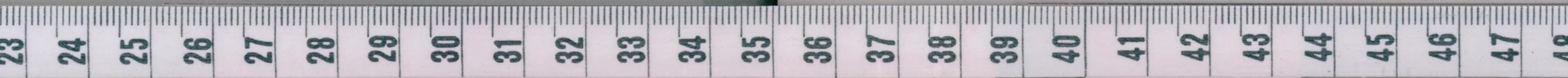
国立国会図書館 タイトル『仇手本』 請求記号 京乙-182

ガラス使用

京乙
182

東 京 圖 書 館

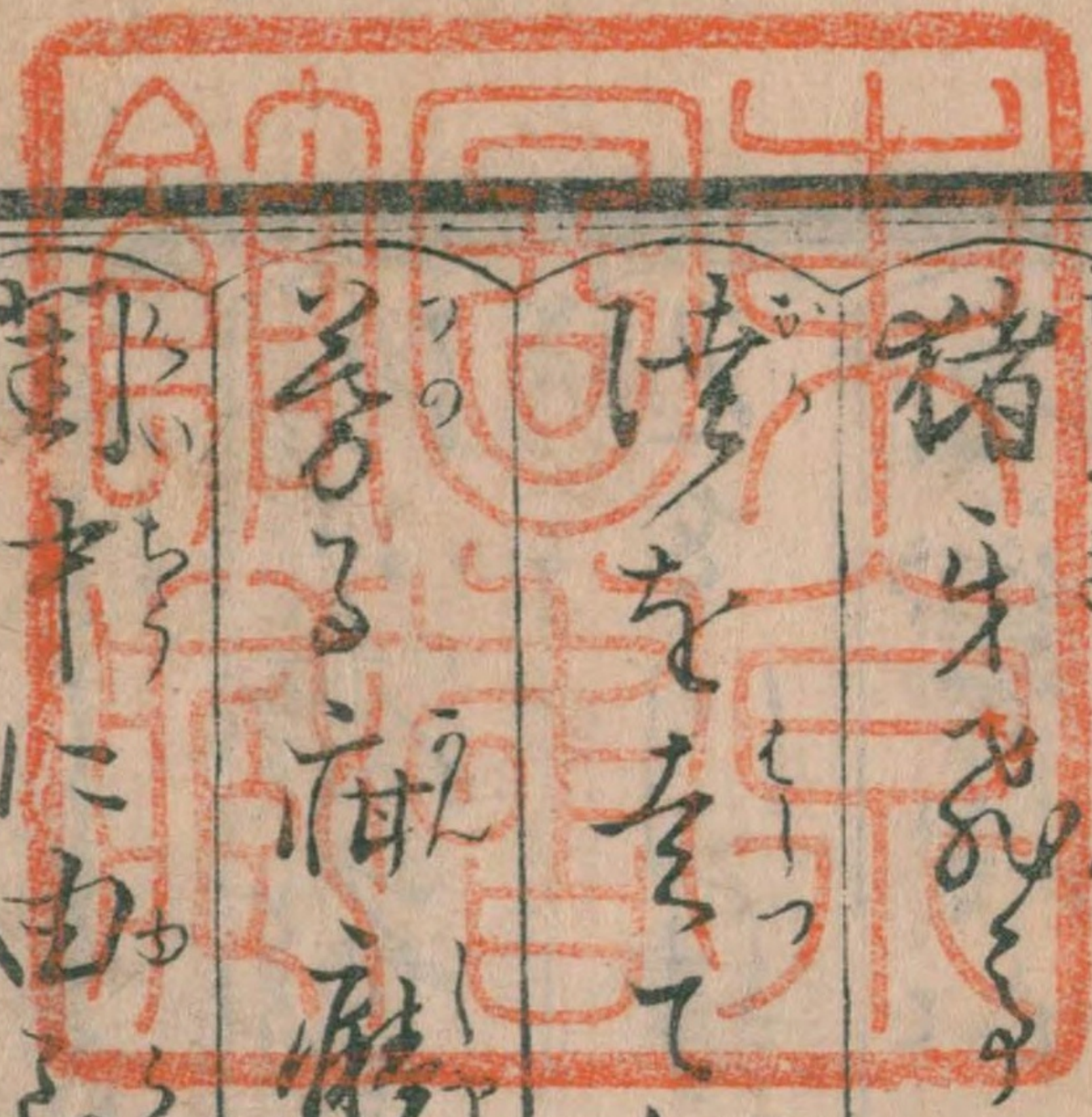
一	八	五	三		
ハ	二		二		
冊	號	架	函	類	門



国立国会図書館 タイトル『仇手本』 請求記号 京乙-182

ガラス使用

We 24062 / 22



自序

猪牙 四天川岸母里舟取

修をきて名訓先後法争小相

孝子海廢ハあ友が経通ホハり

海舟に由らげ年習を免ぶらし女流

が案判れ玉のしをきつらに伴内



仕懸

幕莫

仇手本

後編

仇手本

前編

通神藏

兩冊とも本賣出

初版の六層目
おのころ川の
せうひまがら
よび出しの字
とらがり

七版同の五版め
すのころのせうひ
まがらとあんの
よび出しの字
とらがり



野々勤平は男程床入の角を傷
目隠しとてに魚乃衛ははらふ梳
能小波その中を承る京深の生際を
又をいけおろし蚊指侍人を占ぬ
浮氣は出居底は板おれせと共
にふるふ也師直が性悪うほと共仇つ

庫一

子家も博の男末年を成後一
善忌林正の二巴合ていれ門の世界
とたよりあ海は俄に本は編に通
新戯大極二の理小分多小廊乃
陰巽の湯部て全話十一回わ
ねまは飯名も本は書ねらひ



作者のいろはとえゆふし

の

小金お川丸

交

序二

入序

夕おふ大臣柱とよのをい且

ふぬぐみよきしきよみよみよ

おひのせいの可ちん時世くと

鳥のせうくよアハラ怪しや

家らうすのろくろ魂を引

もどろれたかも幕のしのみ
しふ段目のNew Year (新年)
ちよん〜幕のし〜おひ乃
花もんの玉ふ仲土提女の世
豊知小金あつ丸ちのふ〜
穿市仕舞の宿つと関しるふ

序一

初きつ市江が志〜とおひ乃
さらん舞の意も〜おひ乃
ぬすみ乃幕の危仕懸ふ
舞いのお中合語あま〜
小女児のちよ〜おひ乃
入賣婦はか〜おひ乃



香保壺



凡雅もあつちあつちもあつちあつちの山の子よ
田村人成書

白拍子

第一回

雀ヶ岡山稻本樓遊宴
高野屋妓貌好戯世界

其本文の清書みだして
手本と名づく此序
通神義のちばいおめ
やゝさゝがア
山旭亭間葉行速

二年二

第二回

若狭樓ニ而小波力弥ニ逢
本藏松ケ枝ヲ切之世界



若狭屋助七

第三回

於屋形高直遠半相諍
於船頭勘平契世界

遠州屋

半兵衛





舟宿
早野屋勘平

第五回

勘平千崎跡昔途中話
定九郎二逢居夜泊世界



遠州屋半兵衛自腹之者
稻本而薬種次郎悪世界

第四回

大星屋由良之助

第六回

山家町與市兵衛カ隱家
標為勘平勒奉公、世界

使通左佗



七

附言

大儀に難好も強愈れ異ふ者多し活氣
遊里なり者未喋毎更何じあんど風流
世女雷鳴の妓女もつらやうココロここカリキの
ゆ花もも糸と共ふ財ありぬされど名お
今もある前なりとらんあるは若町の樓上
美とほくしあはるも鈴田れ存と構ら

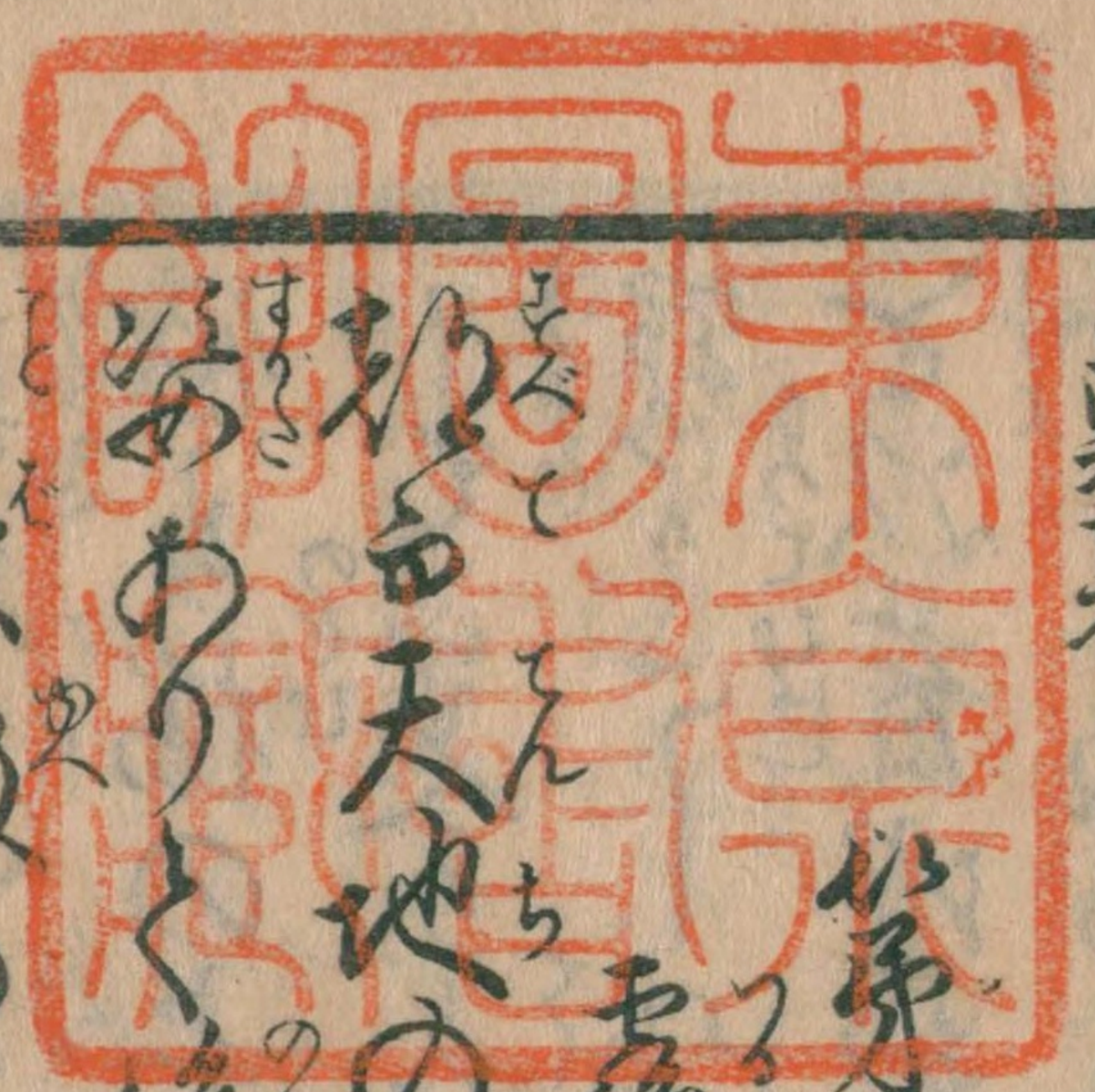
たごや押車おしぐるまの蟻あま縮ちぢる志こころきんせいの
連つれ引ひぶらうぼうとくとく通とほぬ頑がん要よう長なが子こつたは
とねる外ぐわい肺はいあ送おくる中ちゆうりおお流りゅう者者
朝あさ車ぐるまこれ志こころ車ぐるま兵へい背せい泊はくの押おしひひえ
顔かほとくの念ねんせのどみ物もの事ことて中ちゆうも勤つとめに
情じやうとじと中ちゆうら妓ぎ女によの情じやうひ美みとそや
たそとれらるらるた妻つまちららんわごごううたせの

ゆさつぬ舟ふねのぞとてぬら美み川がは舟ふね一夜
のよの遠とほ枕まくらぬふ恋こひえと送おくり夕ゆふふ
色いろ客きやくと中ちゆうらゆら色いろむとたごぬら
切きり小こ指ゆびなせとら血ちの涙なみだあまぶぶ一いつ身みを
抛なく生涯しやうがいとわまるもあがたあ美みの登のぼ
ゆ出いるあ登のぼ送おくるも花はなとらるも一いつ花はなち
ぬららのああとあぶぶと双ふた々つた固かた乃なり





花の跡を花のさうりふ月を懐かた
 とるものうらとそわし〜千金も
 一夜を分も一切執業は是飛りて
 是の事と知るふ有べ〜ぞあきたが
 いづろあはる志らふず女中衆の口を
 あらねき〜ちのらとまひてあつりや
 せうととあつりや

九

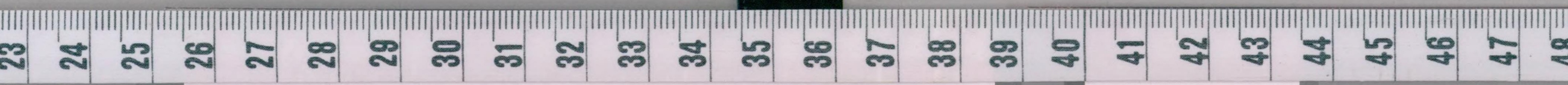


仕懸 仇手本
 莫幕

小金あら丸著



第一回

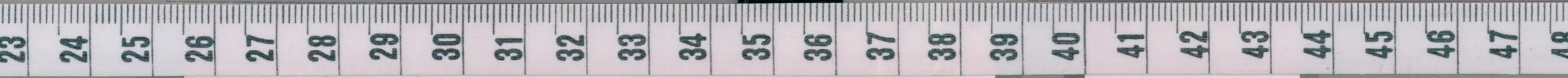
天地の理ありては女あり
 ありと後名ありとた人乃
 云系叔あり〜まはた親父の
 長歩裏の低み居く火の見の



たのき成うらやまんとしんごを丈棧の
高れとちる棧の低と離り形船の
低と橋の上の人の成る高山の月高
しと平の五湖のあも深く
窠ぐ一凸凹と世界の理之今日の理
と次首成めぬたがらなびの神と
女ぐと船のしと高橋の言ふ勝ん
とみさるがゆふさる言も低を

恋れ成段ととく思ふ手成成を低て
猪牙と思ふ朝ぬ名とまふ小貫とも
可ありまぬあまをうらなぬ鎌倉鶴ヶ岡
ノ後の山小二折ぬかざらぬ二折茶屋の
いりなる程とをら其海ありて後名附や
あづまが中ぬ一際月とひつちと橋
稲本とく好む昌あづかむもかくも
同く家人の

利や
あゝわとら合符のふま
かちりまのふ冊ふゆ



あはれ
よき

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれ
よき

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あぶくしのあはれもあはれとて あぶくしのあはれもあはれとて

わづらひ わづらひ 女中 女中 うらみのあはれ きこあうとてあはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ あはれ

Handwritten text in a cursive style, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular border. Several characters are enclosed in small square boxes, possibly indicating specific characters or corrections. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive style, similar to the left page. It is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular border. Like the left page, several characters are enclosed in small square boxes. The handwriting is fluid and characteristic of the Edo period.



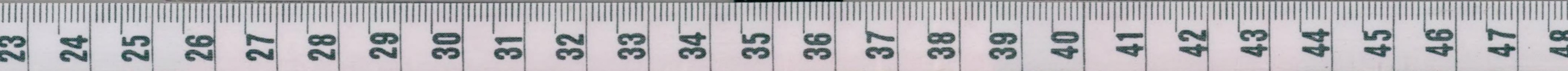
ともぢりてい傳うぬふちりていんさか
 めんろ助かきもアがれちんさうりあこと
 うのめいしちよめぢりていぬがていさうりてい
 ぢんぢりていさうりてい

第四回遠くを半兵衛地蔵切

上の稲本まぢりの世界

のちりん十七斗り申さるるていさうりていさうりてい
ちりちんのゆいさうりていさうりていさうりてい

下申さるるていさうりていさうりてい
 おぢりていさうりていさうりてい
 ぬいさうりていさうりていさうりてい
のちりん十七斗り申さるるていさうりてい
ちりちんのゆいさうりていさうりていさうりてい



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, contained within a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, contained within a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines.



馬 ニラ まいろうせん トそめておのまのぶつるまもくは
ぐうをいまりとくしてあつたはらと

と道にらひいふたや一のゆまは金と
くちくちくひくじがけやまのやうととて ま ま

由 ホイ 由 おそろくごんねんお

カキ~~~~~

第五回勅平定なを

このわうれ世界

向よりくるふてうらん 細平まじ
てんく 勅 イヤ

十一

さなわのほえんも 後 うりせ
とん

そらからんまの勅平 も

さ 勅 やんよ
あひ

うもめんがく 勅 あつ
ら

し 勅 あつ
ら

用 勅 あつ
ら

せ 勅 あつ
ら

あ 勅 あつ
ら

おんのかみとほのむらさきよとていふ

しん **冊** ばいごうとていふと いふ

カ サカ うごちのせつ とせつ の南よ

おち うごち **冊** いふ いふ いふ いふ いふ

しん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

おん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

か いふ いふ いふ いふ いふ いふ

しん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

おん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

く いふ いふ いふ いふ いふ いふ

おん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

い いふ いふ いふ いふ いふ いふ

おん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

い いふ いふ いふ いふ いふ いふ

おん いふ いふ いふ いふ いふ いふ

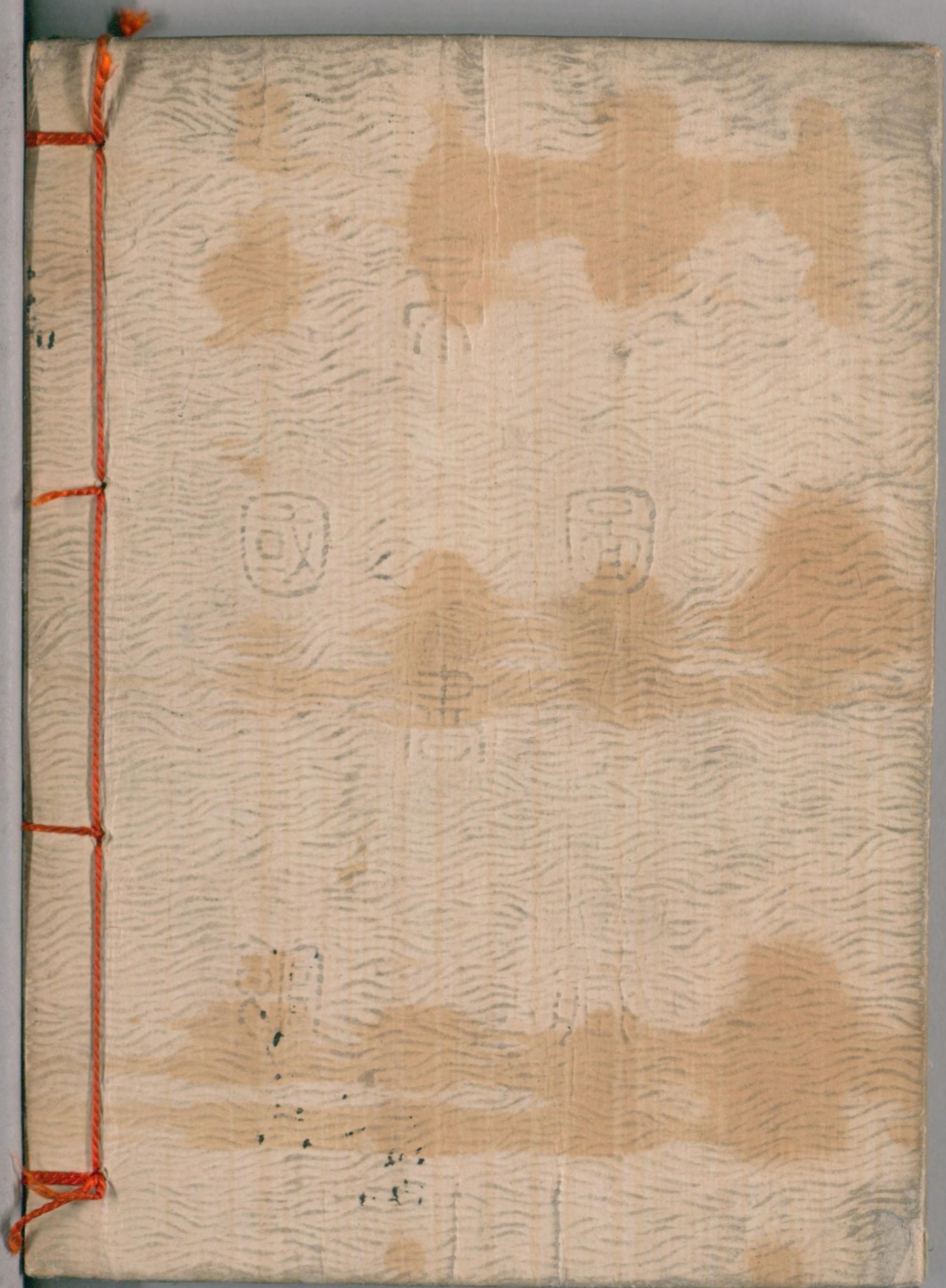
い いふ いふ いふ いふ いふ いふ

京乙
特別
182



国立国会図書館 タイトル『仇手本』 請求記号 京乙-182

ガラス使用



国立国会図書館

タイトル『仇手本』 請求記号 京乙-182

ガラス使用